

第127回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学教育学部附属幼稚園、園長 坂井 聡
香川大学教育学部附属坂出小学校、校長

早くコロナがおさまればよいですね。

不安を取り除くため方法

年度の終りが近づいてきています。来年度はどうなるのだろうかと不安に感じている児童や生徒も多いのではないかと思います。今回は、児童や生徒の不安を取り除くための工夫を考えてみます。

不安を取り除くための具体的な方法を考えるためには、何に不安を感じているのかを児童生徒本人から聞き取ることから始める必要があります。支援する側が想像もしないところに不安を感じていることがあるからなのです。このときは、どのような不安であっても、「そんなこと気にしないで大丈夫だよ」というような返答はしてはなりません。大丈夫ではないと感じているからです。「このことを不安に感じるのですね。大丈夫じゃないと思っているんだね」と返すべきです。共感的に受け止めるということです。

不安に感じていることが分かったら、それに対して解決する手立てを本人や保護者と相談しながら具体的に考えていくこととなります。本人が納得する支援が重要だからです。本人抜きではなく、本人の意見を聞きながら進めていくことを考える必要があります。

例えば、「入学するのだが、教室の場所がどうなっているのか、入学式の手順がどうなのかが分からない」というようなことに不安を感じている場合を考えてみましょう。このようなときは、事前に学校見学の機会を設け、入学式会場を見たり、新しい教室なども見てもらったりしておくという方法が提案できます。私が校長をしている香川大学教育学部附属坂出小学校では、入学式に不安のある子どもたちに、事前に予行練習をする日を前日に設けています。できれば新しく担任になる先生も紹介しておけばいいでしょう。入学前からそのようなことはできないと考える人もいるかもしれません。しかし、そこに不安で困っている児童や生徒がいるのです。不安を感じ困っている子どもに合わせるための最大限の配慮をすることは、教育において決してマイナスに作用することはないと思います。むしろ、教育的配慮しないことのほうがマイナスになるのではないかと考えます。見学が無理な場合は、デジタルカメラやスマホで撮った入学式会場の写真を送ったり、式次第を事前に送ったりすることで対応することも可能ではないでしょうか。また、前年度の入学式の写真を送っておくという方法もあるでしょう。

転校で学校が変わる場合も同様です。事前に家から実際に通学路を使って学校まで行き、学校内を見学し、新学期から過ごす教室を見せたり、新しく担任になる先生の情報を知らせておいたりすることが、不安を取り除くうえで重要な教育的配慮となります。通学路についてはインターネットの地図などの活用も考えられるでしょう。

いずれにしても、入学式や転校時の始業式等のスタートでつまづかないようにしておくことは、どの児童生徒にとっても重要なことなのです。ここでつまづいてしまうと、学校に行けなくなってしまう子どももいるかもしれません。新しい活躍の世界が待っているのです。そのようなことにならないように、保護者とも協力して安心して新しい環境を迎えることができるような工夫する必要があるのです。

進学や転校ではなく、進級という形で新しい環境を迎える児童生徒もいます。進級の場合は、進学よりも不安は少ないでしょう。それでも新しい環境に対する不安は大きいものです。

終業式の前に、自分のロッカー内の荷物や机や机を新しい教室に移動させ、これまで使用していた教室をきれいに掃除するという方法も、不安を取り除き環境が変わることを意識づけるうえで効果的な方法だと考えられます。新しい教室に持ち物を移動させることで、新しい環境に見通しを持つことができるようにすると同時に、教室掃除と終業式をすることで、終わりを伝えることができるからです。

終わりの儀式をすることで、「終了」したことを意識してもらうようにするのです。

ここで述べてきたものは、教育的配慮のほんの一部である。アイデア次第で様々な支援を行うことができるはずですが、ここで強調しておきたいのは、これらの支援は、学校全体で取り組むべきことだということです。特別支援教育を担当する教員だけが支援する問題ではないということも強く強調しておきます。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。